

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

目を追うごとく日当たりの良い尾根から徐々に雪解けが進み、緑が広がり、里の水田の水面に山並みが映し出される。この美しい

風景に心を癒やされる季節でもある。しかし世界から伝わる食料確保の窮状に、コメ栽培農家の期待は膨らむが、後継者不足・資材高騰・気候変動による影響など、気がかりなことも山積している。

そんな影響なのか、主要な道路に接した農地の未耕作地が目立ち、これも建物用地として転用されて行くの
か思ってしまう。農業振興面ではマイナスだが、金融資産の不安も高まっており、不動産投資の要望も多く、地域活性化への期待も多
いことも事実だ。
毎日の生活に欠かせ

ない食料品の高騰に驚かされる日々が続く。特にタマネギの価格は昨年の3倍との情報もある。主要産地の北海道で、猛暑など昨年の天候不順による不作や中国政府の都市封鎖などの厳格な「ゼロコロ

ナ」政策の維持により、中国産タマネギの輸入減少が重なり価格高騰の改善兆候もない。日本の食糧事情のなかで、学校給食や中華食材をはじめ庶民の胃袋を満たしてきたタマネギの重要性に気付かき

れる。大北地域のタマネギの栽培状況は例年並みとの事だが、これからの天候状況によりタマネギ玉の成長への影響や、収穫してから乾燥期間が必要になる事から、生タマネギを買い求める地場産直

売場の動向に期待する農家も多いはずだ。日本にタマネギが伝わったのは江戸時代、本格普及したのが明治期。当時コレラの流行に、タマネギの独特の香りが効くという迷信からだと伝えられてい

るが、このコロナ時のタマネギ騒動は疫病との因果関係を強く感じ
てしまう。
だがインドに「知るは一滴に過ぎず、知らぬは大海のごとし」ということわざがある。日々の出来事の中で得

た知識から判断するに、現在置かれている経済状況は異常な出来事が続いている。米国でベストセラーとなっ
たハース兄弟のビジネス書『アイデアのちから』には、記憶に刻まれるメッセージには6つ法則「単純・意外性・具体的・信頼性・ストーリー

何事の判断も困難な時代に 生きている自覚が求められている

た知識から判断するに、現在置かれている



大勢の大町市民の応援もあり地元大町チームが大活躍

リー性がある事と感情に働きかける」だと分析している。何事の判断も困難な時代に生きている自覚が求められ
ている今だからこそ、現状分析する事から始めようではないか。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)